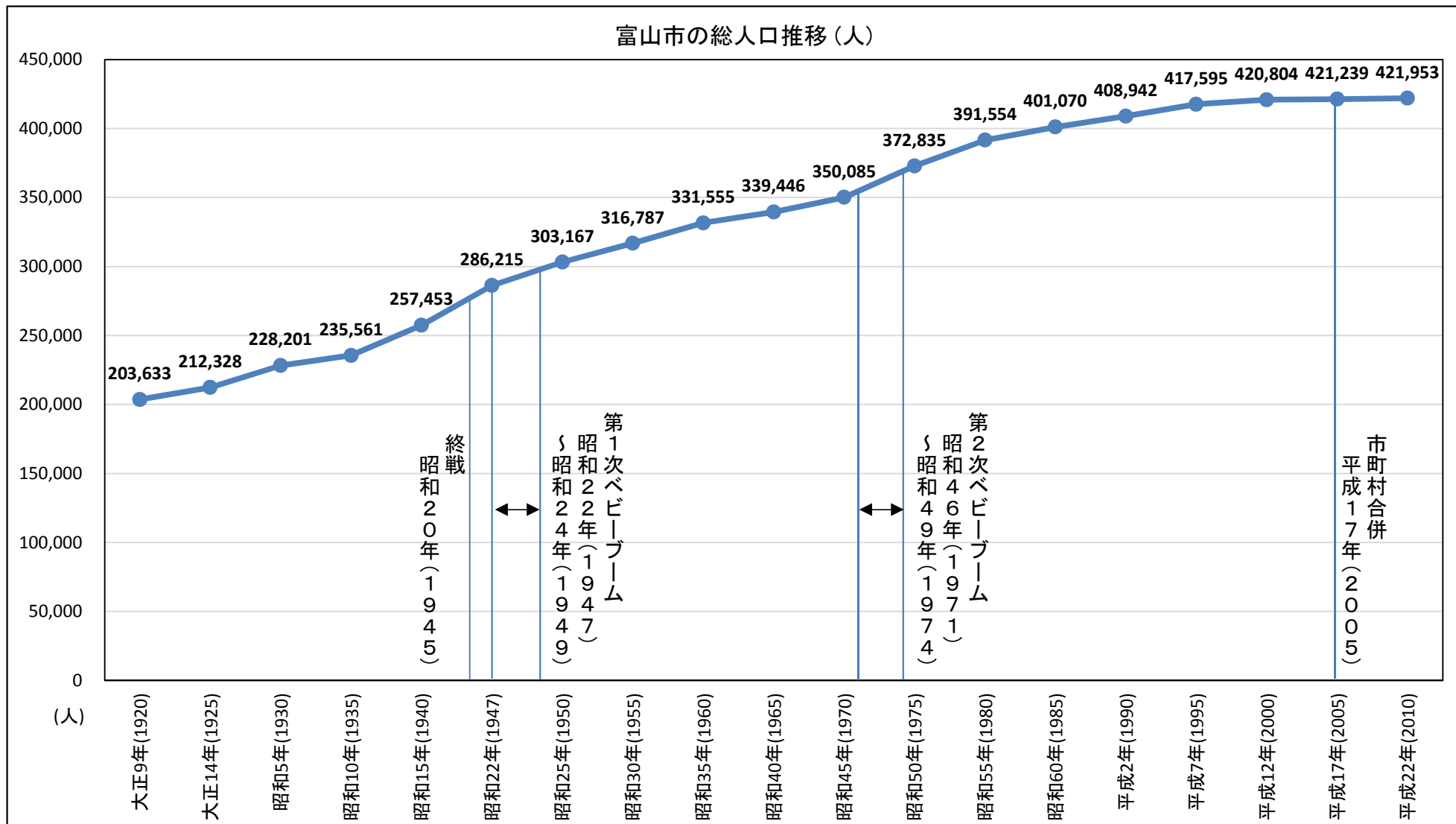


# 富山市の将来人口推計について

# I. 富山市の人口動態の把握

## (1) 総人口の推移 大正9年(1920)～平成22年(2010)

- ・平成22年(2010)国勢調査における本市の総人口は、421,953人である。
- ・総人口は近年まで増加傾向にあったが、平成12年(2000)頃からほぼ横ばいで推移している。

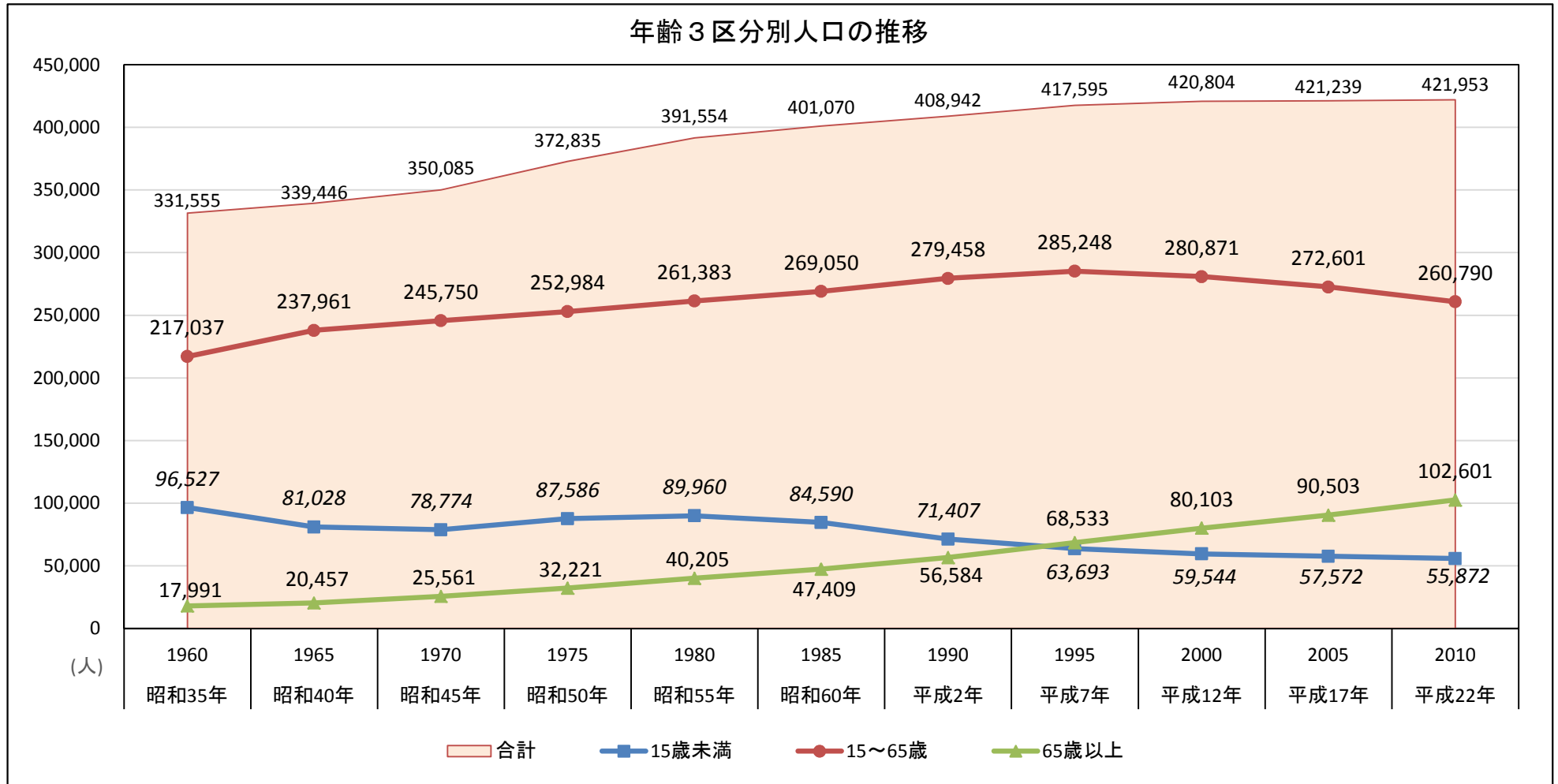


資料：各年の国勢調査

# I. 富山市の人口動態の把握

## (2)富山市の年齢3区分別人口の推移 ①年齢3区分別人口 昭和35年(1960)～平成22年(2010)

・本市の年齢3区分別人口をみると、及び構成比は、平成22(2010)年(国勢調査)で、年少人口(0～14歳人口)が55,872人(13.3%)、生産年齢人口(15～64歳人口)が260,790人(62.2%)、老年人口(65歳以上人口)が102,601人(24.5%)となっている。構成比では、富山県全体(年少人口13.0%、生産年齢人口60.8%、老年人口26.2%)に比べ若い世代がやや多い。(図1-3)

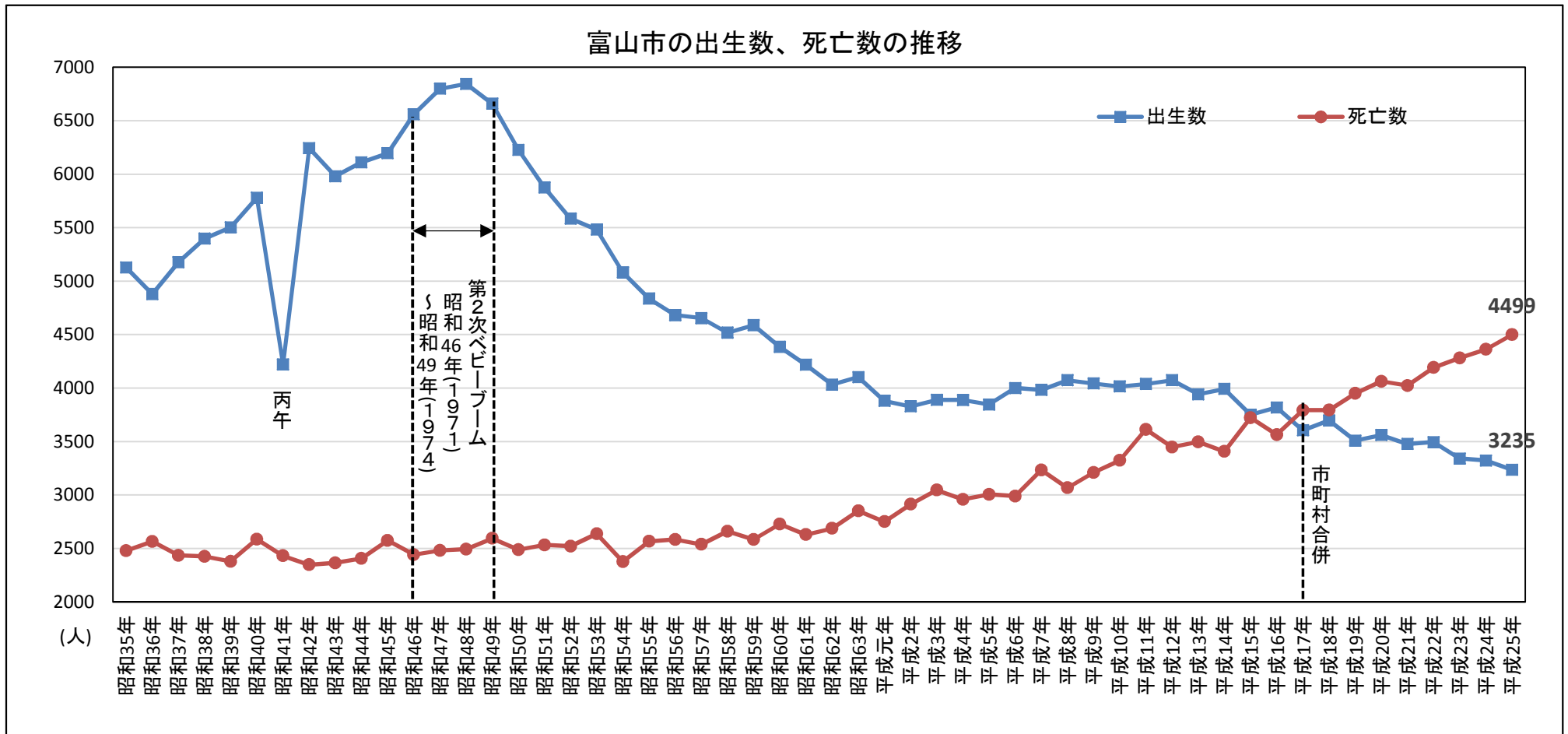


資料：各年の国勢調査（※合計値には年齢不詳分の人口も含まれるため、年齢3区分人口の各数値を合計しても、合計と一致しない場合がある。）

# I. 富山市の人口動態の把握

## (3)人口の自然増減(出生数、死亡数)の推移 昭和35年(1960)～平成25年(2013)

- ・平成16年(2004)までは、出生数が死亡数を上回る「自然増」の状況。
- ・平成17年(2005)年より、出生数より死亡数が上回る「自然減」に転じている。
- ・「自然減」に転じて以降は、出生数と死亡数の差は大きくなる一方であり、平成25年(2013)には年間の出生数より死亡数が1,264人多い。
- ・少子高齢化の進行とともに、今後人口の自然減少が一層強まっていくことが予測され、人口維持のためには、出生数の増加が課題となる。

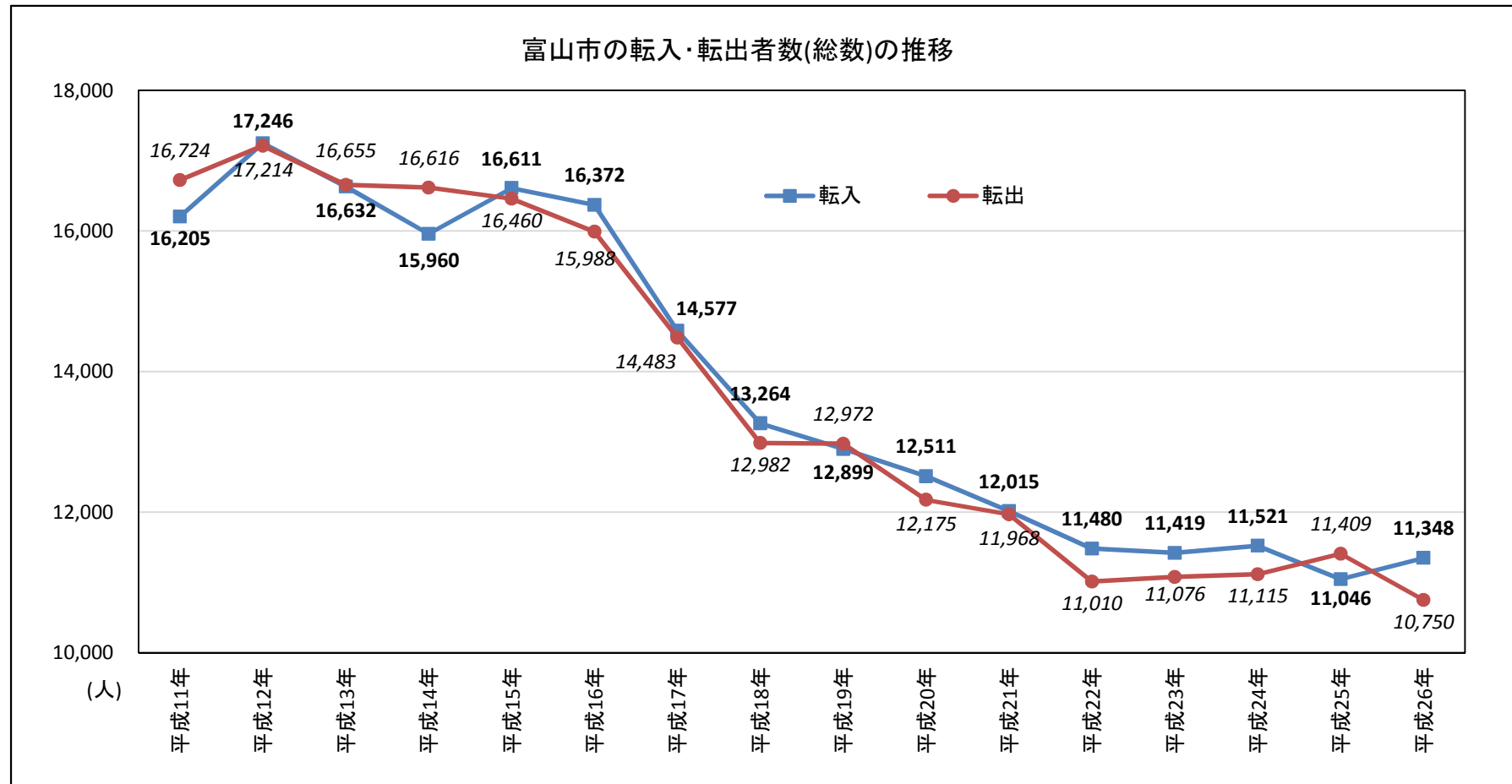


資料：「富山県人口動態統計（保険統計）」 各年1月～12月の値  
 昭和35年～平成16年は、旧富山市、旧大沢野町、旧大山町、旧八尾町、旧婦中町、旧山田村、旧細入村の値を合算

# I. 富山市の人口動態の把握

## (4)人口の社会増減(転入数・転出数)の推移 平成11年(1999)～平成26年(2014)年

- ・平成15年(2003)以降は転入数が転出数を上回る年が多く、平成19年(2007)と平成25年(2013)を除いて転入超過となっている。
- ・転入者数及び転出者数の実数はともに減少傾向にあり、平成26年には転出者数が近年で最も少ない10,750人となった。
- ・人口維持のためには、転入者数増の傾向を維持し、増加数を増やすことが課題となる。



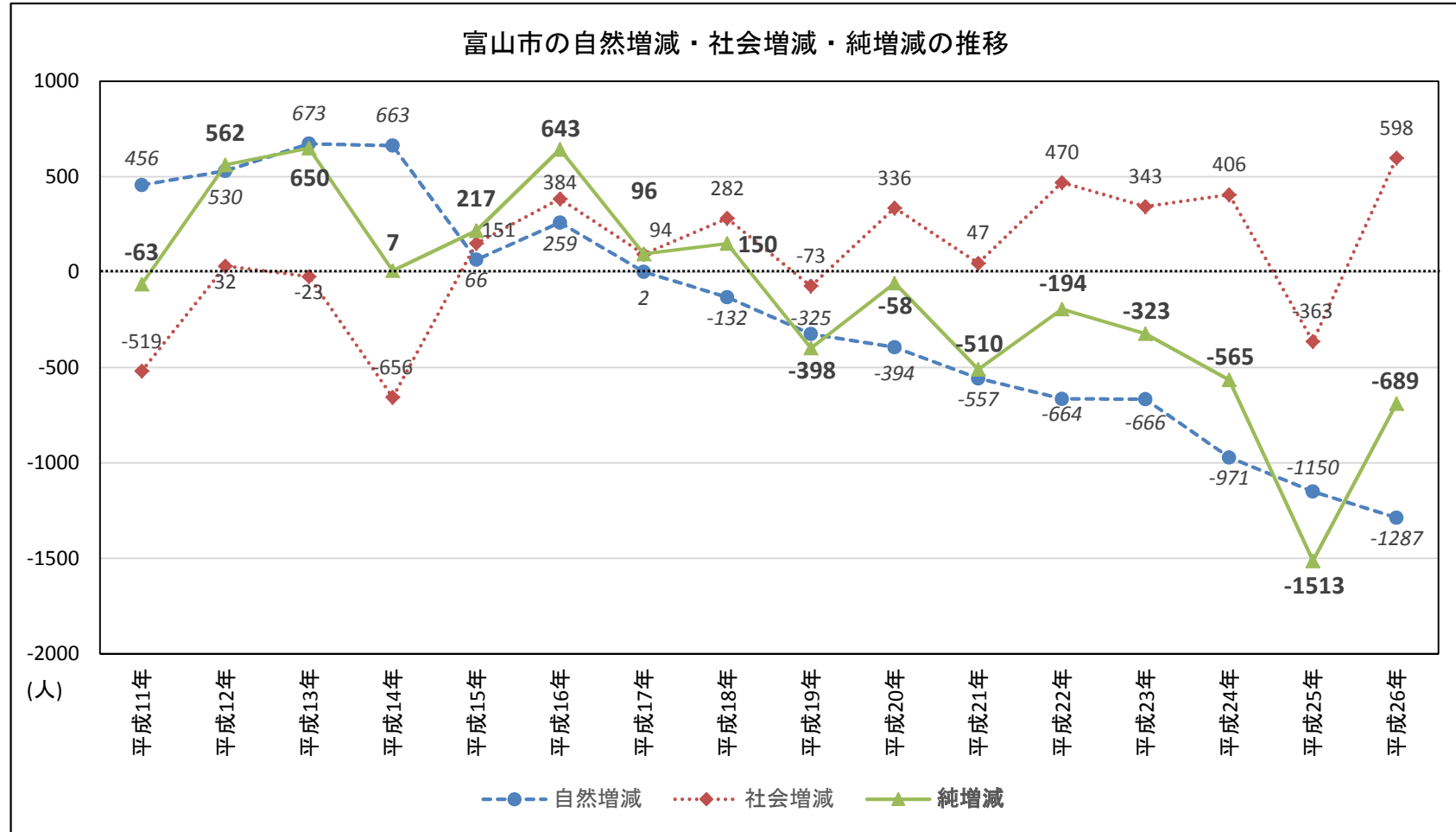
資料：「富山県の人口」

※調査時点：各年(各年とも、前年10月1日から該当年9月30日までの値)資料

# I. 富山市の人口動態の把握 — 1. 富山市の人口動向の分析

## (5) 総人口に与えてきた自然増減、社会増減の影響 平成11年(1999)～平成26年(2014)年

・平成18年(2006)までは純増傾向にあったものの、自然減が大きくなる平成19年(2007)からは純減に転じている。



資料：「富山県の人口」

※調査時点：各年(各年とも、前年10月1日から該当年9月30日までの値)資料

## (6) 出生率の推移

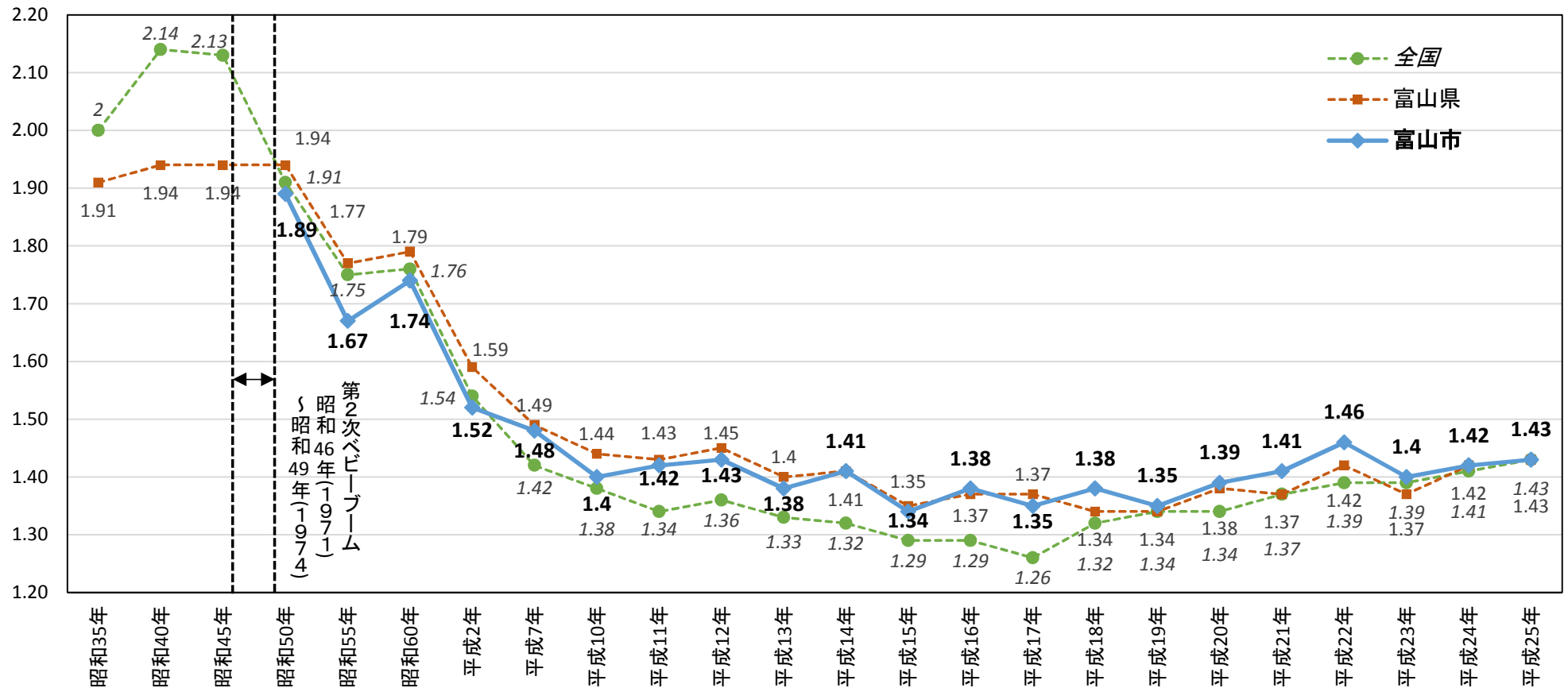
### ① 期間合計特殊出生率の推移

- ・本市の期間合計特殊出生率は、全国及び富山県の1.43よりやや高い。
- ・期間合計特殊出生率は減少傾向にあったが、近年回復傾向にある。

### ② 合計特殊出生率の推移

- ・第二次ベビーブーム後から急激に減少し、平成15年(2003)～平成17年(2005)頃より回復傾向に転じる。富山市では平成18年(2006)から富山県、全国を上回る出生率で推移している。

合計特殊出生率の推移



## Ⅱ. 将来人口推計のポイント

### (1)人口推計のポイント

- 平成22年(2010)に行われた富山市人口推計と同様に、コーホート要因法による人口推計を行った。
- 推計方法のポイントは以下の通り
  - 最新の社会移動状況を推計に反映させるため、純移動率を直近の社会増減から推計して仮定する。純移動率は全期間で一定としている。
  - 全国の出生率と富山の出生率の格差を求め、国立社会保障・人口問題研究所推計の全国出生率推計を補正することで、出生率を仮定し、推計を行った。
  - 出生性比(生まれてくる子どもの男女比)は、直近の出生実績値から求めて設定している。
- ⇒以上より、直近5年間の社会状況を反映させた推計方式となっている。

### (2)推計結果のポイント

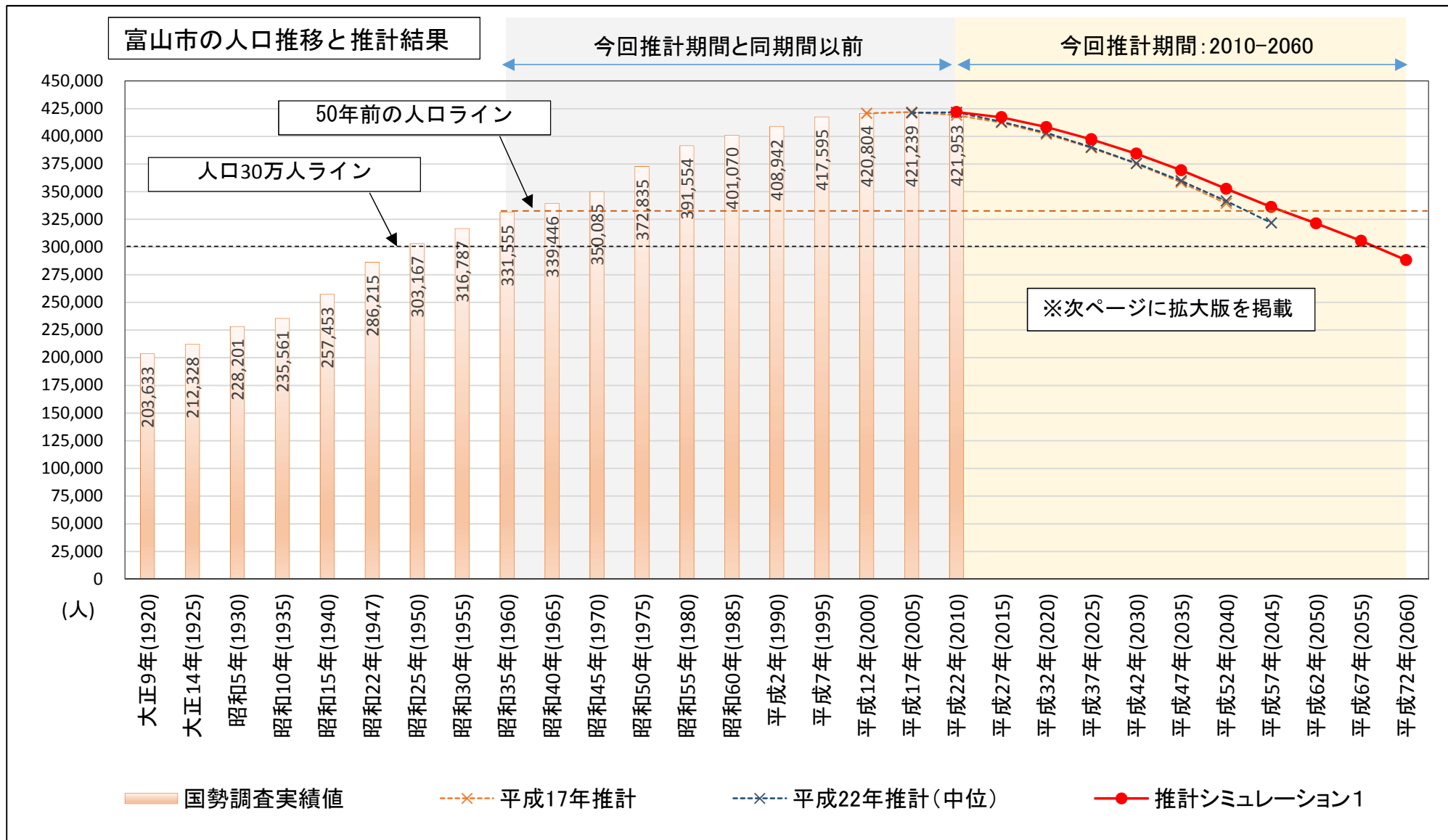
実施概要	コーホート要因法による推計 →出生率は1.42程度で推移
基準人口	平成22年(2010)国勢調査
推計年次	平成27年(2015)～平成72年(2060年)、基準年から50年後までの推計
推計単位	5年ごと
0～4歳出生性比	平成21年(2011)10月～平成26年(2014)9月富山県出生数実績値より算出、全期間で107.68
生残率	国立社会保障・人口問題研究所推計値(富山市値)
純移動率	平成21年(2009)9月と平成26年(2014)9月の住民基本台帳人口から、移動率を算出(旧市町村ごと) 将来にわたって傾向は変化しないと仮定(収束しない)
合計特殊出生率	平成22年(2010)の富山市出生率1.46(平成24年富山市男女共同参画白書記載)と全国出生率実績値1.3873の格差を求め、国立社会保障・人口問題研究所推計の推計値に乗じる H22-27:1.45533 / H27-32:1.42576 / H32-37:1.40090 / H37-42:1.40456 / H42-47:1.41031 / H47-52:1.41454 / H52-57:1.41851 H57-62:1.42119 / H62-67:1.42174 / H67-72:1.42146
推計結果	平成22年(2010):421,953人(実績) 平成52年(2040):352,466人 平成72年(2060):288,244人



# Ⅲ. 人口推計結果概要

## (2) 推計結果まとめ ①これまでの人口推移と推計結果

今回行った推計シミュレーション1(コーホート要因法による推計)では、推計期間の終端で総人口が30万人を割り込む結果となっている。一方でその他のシミュレーションでは、30万人を超える結果となった。



# Ⅲ. 人口推計結果概要

## (2) 推計結果まとめ ②推計期間の拡大表示

国の示す人口置換水準と同等の出生率と仮定した場合が、平成72年時点の人口が最も多くなっている。

